



—北アフリカ地域ニュース—

エジプト：ムバーラク大統領の地中海連合首脳会合出席

(7月14日付現地各紙)

1. 7月13日にパリで開催された地中海連合首脳会合には、ムバーラク大統領を含む地中海諸国首脳を中心に42カ国の首脳が参加した。
2. ムバーラク大統領は閉会のスピーチで、同首脳会合はバルセロナ合意（注：1995年にEUと地中海諸国の間で、2010年までに自由貿易圏創設を目指した、EU・地中海諸国パートナーシップ協定・バルセロナ宣言が締結され、2年ごとに閣僚級会合を開催してきたが、2005年11月にはバルセロナで初の首脳会議が開催された。）の延長として開催されたものであり、現在存在する地中海諸国間協力の発展に向けた政治的意思を生かし、今後、地中海連合内での南北格差の是正、欧州・地中海諸国間協力を、人々の生活発展と安全に資するよう強化していく必要性を強調した。
3. サルコジ仏大統領は開会のスピーチで、地中海諸国間の関係は、隣国間相互の寛容な関係に止まらず、共通理解と相互尊重を基礎に、更に開かれた関係、パートナーとして発展すべき旨を述べると共に、地中海諸国間のよりよい未来の建設には平等と相互協力が必要であり、これは政治、道徳、歴史的な選択であると述べた。
4. 会合後に、ムバーラク大統領とサルコジ大統領の間で、経済発展・食糧安全保障・エネルギー安全保障・環境保全、教育・訓練・福祉・文化・学術調査、人の移動など主要議題と共に、中東和平プロセスについても協議が行なわれた。
5. 共同記者会見でサルコジ大統領は、イスラエルも出席する同首脳会合にアラブ首脳が参加したことは平和の構築に向けた勇気ある決定であると述べた。又、ムバーラク大統領は、同会合がイスラエルとの関係正常化、アラブ・アイデンティティの喪失に繋がるのではとの懸念に対し、バルセロナ合意でもイスラエルは参加したが、アラブ諸国との関係正常化には至っておらず、その後アラブ・アイデンティティの喪失も起こっていないと述べた。